

## 主 題：旧約に見る神の救いのご計画

## 聖書箇所：出エジプト 25, 26章

暑い8月がやっと過ぎましたが、まだ9月も変わらず暑いことでしょう。この8月、皆さんの記憶に残っていることは何でしょう？一番はロンドンのオリンピックではなかったかと思えます。これまでに最高のメダル数38個を取りました。日本中が熱狂しました。銀座でのメダリストパレードには50万人も集まったとか、どうして数えたのでしょうか？それから、夏の甲子園も熱かったですね。優勝戦は春と同じ対決になって、これも高校野球が始まって以来初めてのこららしいです。そして、今はパラリンピックが始まっています。このような熱い出来事がありました。特に、今も続いている大きな話題は領土の問題です。北方領土、国後、択捉、歯舞、色丹という四つの島がロシアと、島根県の竹島村は韓国と。竹島村は実は二つの島からなっていることが分かりました。先週の水曜日の毎日新聞に丁寧な地図が載っていたので、ご覧になった方もおられるでしょう。そして、尖閣諸島、これは中国とです。それぞれの国が領有権を主張していて、どちらが正しいのかそれぞれの言い分があるのでしょうか、いったい、どちらの言い分が正しいのかとなると、やはり、歴史が大切になってくるということでしょう。

私たちが余り詳しく習っていないことを韓国や中国やロシアでは教えているのかもしれませんが、この歴史を忠実に溯って行って、世界がどのようにその主張を認めているのかをみて、どちらの主張が正しいのかということ、現在、何も知らない私たちは理解することができるということだと思えます。このように私たちは今何が起きているのかを見て、その何が正しいのかを知るときに、今言ったように歴史を紐解くという一つの方法があります。同様に、今、私たちがこの場において神の前に礼拝をささげる特権が与えられていることを感謝するのですが、どのようにしてその特権が与えられて来たのかということ、私たちは旧約聖書を通して知ることによって、今、現在私たちが置かれているすばらしい立場が如何なるものかということを知ることができるのです。ご承知のように、旧約聖書、新約聖書の両方を合わせて一巻の書物です。残念ながら、旧約聖書だけの販売は余り芳しくないようです。新約聖書に比べると1/6だと言われているから、多くの方は新約聖書だけを読んでおられるということもまた確かでしょう。

初めに、ローマ1:2-3と15:4を読みます。「2 この福音は、神がその預言者たちを通して、聖書において前から約束されたもので、3 御子に関することです。御子は、肉によればダビデの子孫として生まれ、」  
「15:4 昔書かれたものは、すべて私たちに教えるために書かれたのです。それは、聖書の与える忍耐と励ましによって、希望を持たせるためなのです。」、預言者たちを通して、前から約束されていたものは何か？また、昔書かれたものは私たちに教えるために書かれた、旧約聖書がそうなのだということです。そして、私たちに希望を持たせるためだということです。先週と先々週の2回、成田兄が「救われた私たちの立場と務め」についてメッセージをしてくださいましたが、今日はさらにそのことを深く学んでいきたいと思えます。お手元の資料の太字で書かれたところは聖書のみことばです。最後のページには絵がありますが、これは話の途中で説明することになるでしょう。聖書には詳しく書かれていますが、読むだけではなかなか理解し難いこともあるので、その理解の助けになると思えます。

出エジプト記の25章と26章はエジプトにいたイスラエルの民がエジプトを出て、シナイ半島を約40年かかって神の約束された地カナンへと旅をするのですがその途中の出来事です。19章から31章にその出来事が記されています。ちょうど、シナイ半島の先にシナイ山、またの名をホレブ山という山があります。ホレブとは「荒れた地」という意味ですが、そのシナイ山にモーセが神によって召されたその出来事が記されています。神はイスラエルの民にこのように言われました。「あなたがたのために戒めを与える。」と、よくご承知の十の戒め、命令です。私たちが十戒と言っているものです。二枚の板に書かれたものです。イスラエルの民は神が「あなたがたがわたしが命じる命令を守るならあなたがたを正しい者と認めよう。」と言われたとき、民はこのように言いました。「私たちはあなたが言われることをすべて守り行ないます。」と。出エジプト24:3を見ると「そこでモーセは来て、主のことばと、定めをことごとく民に告げた。すると、民はみな声を一つにして答えて言った。「主の仰せられたことは、みな行ないます。」と、7節にも「そして、契約の書を取り、民に読んで聞かせた。すると、彼らは言った。「主の仰せられたことはみな行ない、聞き従います。」とあります。神が決められたおきては完全です。不完全な人間が守り得ないおきてです。イスラエルの民はこのように言うべきでした。「神様、それは余りにも難しい！ 私たちには到底守ることはできません。」と。しかし、彼らは「聞き従い、みな守り行なう。」と書いたと記されています。神は「それなら、あなたがたがそのように決心したことを証として現わすために、

これからわたしが命じることがせよ。」と言われたのです。それが25章、26章以下に記されていることです。神は細かいことをたくさん言われたので、すべてのことを一つひとつ見ることはできませんが、今日はその中の主だったことを通して、私たちがいかにすばらしい立場に置かれているのかということをおとんとともに神に感謝したいと思います。

## ☆神が出エジプト後のイスラエルの民に命じられた昔書かれたこととは？

### 背景：

出エジプト24：12-18、神が書き記した石の板をモーセに授けると言われたが、その後命じられたことは？

#### I. 聖所を造れとの神のご命令 25：1-9

そのために、イスラエルの民から奉納物を集めよと言われました。

##### 1. 神への奉納物について：心から進んでささげる

25：1-2「主はモーセに告げて仰せられた。：2「わたしに奉納物をささげるように、イスラエル人に告げよ。すべて、心から進んでささげる人から、わたしへの奉納物を受け取らなければならない。」、先ほど私たちは献金をしました。感謝の献金です。イスラエルの民は神に「すべて、心から進んでささげる人から、わたしへの奉納物を受け取らなければならない。」と言われました。

##### 2. 神が求められるもの：神の基準に拠らなければならない

そして、彼らから受け取る奉納物は次の通りであると、神は続けて命じられるのですが、25：9では神が求められるものは神の基準通りに作らなければならないと教えています。「幕屋の型と幕屋のすべての用具の型とを、わたしがあなたに示すのと全く同じように作らなければならない。」と、神にささげる奉納物は神が言われた通りに作りなさいと言われるのです。ここに私たちは神が定めた基準は絶対的なものだということを教えられます。同じ25：40に「よく注意して、あなたが山で示される型どおりに作れ。」と言われているのを見ることが出来ます。私たちは神の前に勝手な解釈、勝手な基準を用いてはならないと教えられます。救いに関しても同様です。いろいろな考え方を聖書を誤って解釈をして、救いを捻じ曲げるような教えもありますが、私たちが信じている救いの方法はただ一つです。

⇒ 救いは、イエス・キリストだけが唯一の救いの道である。

ということです。ヨハネ14：6「イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。」、イエス・キリストを通してだけが唯一の神の決められた救いの道であると、ここに、神の前にあって私たちが知るべき救いの基本が教えられています。当時のイスラエルの人たちはこのことについてはまだ知らなかったのです。なぜなら、新約聖書がないからです。

さて、神がイスラエルの民に教えられた基本は何か？ということをおとんとから学んでいくのですが、次の区分を見ましょう。神の聖所である幕屋を造るに先立って、神が第一に命じられたのは？

#### II. 箱を作れとの神のご命令 25：10-22

最初に神が言われたのは「箱を作れ」ということでした。神は、幕屋を造る前にその中に入れる一番大切な物を作るように命じられたのです。建物より先にその中のものを作れという不思議な命令を民は神から受け取ったのです。その材料やサイズが詳しく記されています。

##### 1. アカシヤ材の箱を造らなければならない 25：10-16

10節には「アカシヤ材の箱を作らなければならない。」とあります。「アカシヤ」とはよく聞く名ですが、シュティムという木から取ったオレンジ・ブラウン色の荒野で得られる最大の木（4～7m）だと言われます。その木を材料にして箱を造りなさいと神は言われました。これはどんな意味があるのでしょうか？神が言われたことで意味のないことは一つもありません。当時、このアカシヤ材についてどのような考えがあったのか？ギリシャ語訳の70人訳聖書には「不朽の木材」と表現しています。朽ちることがないのです。エジプトでは永世の象徴、永遠の象徴、シンボルであると考えられていました。また、後期のユダヤ教ではアカシヤの4文字を取って「平和、親切、救い、赦し」という四つの文字の頭文字になっていると言います。このアカシヤ材はイエス・キリストの象徴だということをおとんとは知ることが出来るのです。

そして、「長さは二キュビト半、幅は一キュビト半、高さは一キュビト半」と書かれています。このキュビトは距離を測る単位です。肘から中指の先までが一キュビトです。イスラエルでは44.5cm、エジプトでは44.7cmと少し違いがあります。私のキュビトを測ってもらおうと41cmしかありませんでした。実際のサイズではこのようにばらつきがありますが、実測を基に言えば44.42cmが正しいだろうと考えられています。私たちが換算するときには45cmとすればいいと思います。ちなみに、リビングバイブルでは50cmと計算しています。このようなサイズのものを作れと言われたのです。

そして、大事なことは11節「これに純金をかぶせる。それは、その内側と外側とにかぶせなければならない。」と。イエス・キリストの人としての性質を現わすアカシヤ材の材質の内側と外側に純金をかぶせなさいというのです。聖書に見る「純金」ということばは「神性、神の聖さ」を表わします。この箱はどのように内側からはイエス・キリストの人性、そして、外から見ると神の神性を見ることができるのです。このような箱を作るように言われたのですが、もちろん、イスラエル人はそのときは理解できなかったことでしょう。

そして、箱の中には十の戒めが書いてある石板を入れることになっています。16節に「わたしが与えるさとしをその箱に納める。」とある通りです。イエス・キリストとこのおきての間には大きな関係があるのです。

⇒ これらは完全な神であり人であり、律法の完成者であるキリストを表わし、また、人となられたキリストの型である。

ヨハネ1：1、1：14「初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。」、「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。」、私たちの間に住まわれた「ことば」はイエス・キリストです。

◎このキリストは、

(1) 律法に完全に従われた＝完全な人であった

ヘブル10：7には「そこでわたしは言いました。『さあ、わたしは来ました。聖書のある巻に、わたしについているされるとおり、神よ、あなたのみこころを行なうために。』」と記されています。「あなたのみこころを行なうために。」とあるように、イエス・キリストだけが完全な神の戒めを守ることができるお方です。そのためにイエスは人のからだを取ってこの地上に来られたというのです。

(2) 律法を成就するために来られた

イエス・キリストは完全な人であるとともに、律法を成就するために来られたと書かれています。マタイ5：17「わたしが来たのは律法や預言者を廃棄するためだと思っはなりません。廃棄するためではなく、成就するために来たのです。」、律法を完成するために来たと言います。

(3) 律法を終わらせられた

また、律法を終わらせるために来たと言われ、ローマ書に記されています。10：4「キリストが律法を終わらせられたので、信じる人はみな義と認められるのです。」

当時、イスラエルの人たちはこの厳しいおきてを完全に守らなければならなかったのです。彼らは「守れる」と言ったのです。でも、今私たちはこの律法を守らなければ救われないということではないことが分かります。イエス・キリストが律法を終わらせられた、信じる人が義と認められる、信仰による義認がここで確立されているということを知ることができます。

⇒ 人は律法を守ることによって救われるのではなく、信仰によってのみ救われる。

2. 贖いのふたを作る 25：17

「また、純金の『贖いのふた』を作る。長さは二キュビト半、幅は一キュビト半。」、「贖いのふた」とはいったい何でしょう？リビングバイブルはとても分かり易い訳をしています。「罪を赦す神の恵みの座」とあります。ふたの上にケルビムが二つあります。箱を作り、そして、贖いのふたを作れと神は言われたのです。この贖いのふたは先ほども言ったように罪を赦す神の恵み座です。神がこの上に現われて、そして、イスラエルの民の罪を赦すと言われた座です。これも純金の板で作られています。神聖なる神の象徴です。そして、槌で打って作った二つの金のケルビムが両端にあります。

ケルビムの単数はケルブですが、これは「天使的存在」です。私たちがよく知っているのは創世記の記事です。アダムが罪を犯してエデンの園から追放されるそのときに、神は罪を犯した人が永遠のいのちの木を取って食べることがないようにと、彼らがエデンの園に入れないようにケルビムを置く訳です。創世記3：24「こうして、神は人を追放して、いのちの木への道を守るために、エデンの園の東に、ケルビムと輪を描いて回る炎の剣を置かれた。」、これは神の義の象徴、さばきの象徴です。人はこのケルビムの前を通過することができないということを表わしているのです。

このようなケルビムには顔が四つあります。一つのケルブの顔が四面になっていて、正面は人間の顔です。右側は獅子の顔、左側が牛の顔、後ろが鷲の顔をもった天使です。そして、四つの翼があり、翼の下から人間の手の形のものがあります。真っすぐに立つことができる足があります。これがケルブ、複数でケルビムです。このようなものを作れと言われたのです。

◎贖いのふたについて

(1) 一年に一度、大祭司は大贖罪日に至聖所に入り、自分と家族のためにいけにえの雄牛の血と、民のために山羊の血を、贖いの蓋の上とその前に注ぐ。その贖いの場所であった。(レビ記16章)

そこには犠牲の血が注がれて、神の義が満足させられるというのです。この聖所が造られて、聖所と至聖所があり隔ての幕があります。イスラエルの人たちは十の命令を守ることができません。それ程罪は大きなものであったのです。人間の行ないでは決して神の義を満足させることはできないのですが、そのことに対して、神は一つの道を備えてくださった。それは人々が毎日いけにえの動物をもって来て、その動物の血を流すことによって罪を赦そうと神は言われたのです。だから、イスラエルの人たちは毎日、罪を解決しなければならなかったのです。また、そのために祭司という働きがあって、祭司はこの聖所に入ってそのとりなしをすることができたのです。もちろん、祭司自身もその罪を赦される必要があったから、動物の犠牲を払って血を流さなければならなかったのです。そして、それでも足りなかったのです。毎日していても…。ですから、神は特別な道を備えてくださったのです。それが「贖罪日」というものでした。年に一回、贖罪日、7月10日ですが、その日に大祭司がこの至聖所に入って、そして、贖いのふたの上に動物の血を注ぎかけることによってイスラエルの人たちが気付いていないけれども犯した罪を、また、償いきれなかった日々の罪の赦しを設けてくださったのです。これが至聖所であり、贖いのふたであるということをおぼろげに教えられます。この契約の箱には後に、二枚の石板が入ります。十の命令が書かれた石板です。しかし、それにはしっかりとふたがされたのです。そして、この箱の中に納められた十の戒めを守ることができない人々のために動物の犠牲の血が流されたのです。それによって神の義が一時的に満足させられたと、このように私たちは見ることができます。まさに、イスラエルの罪が覆われたということをおぼろげに教えられます。あくまで覆われているだけです。

## (2) 神の栄光とご臨在を現わす

また、25:22を見るとこのふたの上は神の栄光と臨在の場であると言われています。「わたしはそこであなたと会見し、その『贖いのふた』の上から、すなわちあかしの箱の上の二つのケルビムの間から、イスラエル人について、あなたに命じることをことごとくあなたに語ろう。」、レビ記16:1-2には「アロンのふたりの子の死後、すなわち、彼らが主の前に近づいてそのために死んで後、主はモーセに告げられた。:2 主はモーセに仰せられた。「あなたの兄アロンに告げよ。かつてな時に垂れ幕の内側の聖所にはいって、箱の上の『贖いのふた』の前に行ってはならない。死ぬことのないためである。わたしが『贖いのふた』の上の雲の中に現われるからである。」と記されています。アロンの二人の子が死んだのです。なぜか？彼らはこの聖所で勝手な時に勝手な行動をしたからです。それは神が禁じられたことでした。祭司であっても罪があるから赦されなかったのです。大祭司であっても年に一度しか赦されないことです。この贖いのふたが大きな意味を持っていることをイスラエルの民は知ったのです。

## Ⅲ. 幕屋を造れとの神のご命令 26:1-14

### A. 幕屋とは？

「幕屋」にはいろいろなことばが使われていますが、日本語でも私たちに馴染みのことばがあります。

#### 1. 名前の由来：

- (1) ミクダーシュ：聖所 25:8
- (2) ミシュカーン：幕屋 25:9 ~に住む、留まるという意味です。
- (3) オーヘル：天幕 26:36 ~仮の、簡便な住居

#### 2. 目的：

- (1) 神が臨在される場所、民と神との会見の場 25:8
- (2) 予型：あらかじめ示された型です。

#### ・幕屋の器=天にあるものに型どったもの

ヘブル9:23に「ですから、天にあるものにかたどったものは、これらのものによってきよめられる必要がありました。しかし天にあるもの自体は、これよりもさらにすぐれたいけにえで、きよめられなければなりません。」とあります。すなわち、イスラエルの民が造った幕屋、箱は天にあるものに型どったものであり、そして、大祭司、祭司によって、動物の犠牲の血によってきよめられる必要があった。しかし、天にあるもの自体はこれよりもさらにすぐれたいけにえできよめられなければなりません。天に本物があると言うのです。そして、動物の血ではなくて、もっと優れた犠牲の血が払われなければならないと言います。Iヨハネ1:7を見てください。「しかし、もし神が光の中におられるように、私たちが光の中を歩んでいるなら、私たちは互いに交わりを保ち、御子イエスの血はすべての罪から私たちをきよめます。」、すなわち、御子イエスの血がすべての罪から私たちを聖める、イエス・キリストの血だけが私たちの罪を聖めるのであって動物の血ではないということをおぼろげに教えられます。私たちは幸いにも新約聖書を通してこの旧約の教えを見ることができるのです。

## ・キリストとキリストの贖罪

ヘブル9：24には「キリストは、本物の模型にすぎない、手で造った聖所にはいられたのではなく、天そのものにはいられたのです。そして、今、私たちのために神の御前に現われてくださるのです。」と書かれています。イエス・キリストは十字架に掛かってよみがえられた、そして、その後天に戻っていかれ、神の右の座に着いて私たちのためにとりなしをしてくださると、動物の血ではないのです。イエス・キリストご自身が流してくださった血によって、直接神に私たちの罪をとりなししてくださっているというのです。

### B. 幕屋の造り方

#### 1. 10枚の幕で造らなければならない 26：1

「幕屋を十枚の幕で造らなければならない。すなわち、撚り糸で織った亜麻布、青色、紫色、緋色の撚り糸で作る、巧みな細工でそれにケルビムを織り出さなければならない。」、その長さや幅が記されていますが、5枚の幕を互いにつなぎ合わせて二枚の幕にするのです。5枚という数がどのような意味を持っているのか、聖書にははっきりとその意味を記していません。聖書にはいろいろな数字が出て来ます。「3」は三位一体の神を表わす完全数だとか、神の数だとか、あるいは「7」は完全数、「4」は人の数で合わせたら完全だとか、「10」は長いスパンを表わすものといろいろと言いますが、聖書がはっきりと教えている訳ではありません。けれども、この「5」が全く意味がないのか？聖書的根拠は分かりませんが、けれども、私たちの手には5本の指があり、両方合わせて10本、足にも5本の指があり両足で10本。手は私たちが働くときに非常に有用なものです。そして、足の指がなければしっかりと立つことができません。人に対する責任と神に対する責任を表わすと、このように考える人たちがいます。そのような意味があるのかもしれませんが、いずれにしても、5枚づつをつなぎ合わせて幕を作りなさいと言われたのです。

⇒ 幕屋は神の義に対する人間の責任と、十字架上でのみわざのゆえに、人を義としてくださるキリストの型である。

知っていただきたいのは次のことです。

#### 2. 幕屋の上にかける天幕のために山羊の毛の幕を11枚作る 26：7

##### (1) 一枚の長さは30キュビト、幅は4キュビト

「また、幕屋の上に掛ける天幕のために、やぎの毛の幕を作る。その幕を十一枚作らなければならない。」、幕屋の上にかける聖所と至聖所をおおう幕ですが、ここに4種類の幕が記されています。最初は亜麻布、次に山羊の毛で作られたものです。山羊の毛、動物の毛皮は何を表わしているのか？ゼカリヤ13：4に「その日、その預言者たちはみな、預言するときに見るその幻で恥を見よう。彼らはもう人を欺くための毛衣を着なくなる。」と書かれていて、預言者たちは毛皮を着ていたことが分かります。ですから、当時の一般の人とは異なった服装をしていたことが分かります。また、あのバプテスマのヨハネも毛皮を着ていました。イエスに向かって「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。」(ヨハネ1：29)と言ったあの預言者です。すなわち、山羊の毛で作られた幕は預言者としてのイエス・キリストの象徴だったのです。

⇒ イエスはモーセが語った預言者であった。(使徒3：22, 23)

##### (2) 赤くなめした雄羊の皮の覆いとジュゴンの皮の覆いを作る 26：14

三つ目に赤くなめした雄羊の皮とあります。14節「天幕のために赤くなめした雄羊の皮のおおいと、その上に掛けるじゅごんの皮のおおいを作る。」、これは十字架で流されたイエス・キリストの血、イエス・キリストの血の贖いを象徴しているのです。最後に、ジュゴンの皮とあります。ジュゴンを知っておられますか？見たことがありますか？私は見たことがありません。インターネットで写真を見ると大体想像がつかます。海牛目海牛科、シーカウズです。実は、ジュゴンという名は元々マレーシア語から来ていると言われ「海の貴婦人」です。全然違うイメージが与えられますが、ただ、色は灰色がかかったもので、形もすばらしいものでないことも確かです。胸にヒレがあって、後ろに三角の尾のようなものがついている哺乳動物です。そして、海の草を食べるために口が顔の下についています。ちょっと見ると、アザラシのような感じですが、アザラシはネコ科でネコの種類に入るので全然違うのです。

この幕屋の最初の幕は真っ白な亜麻布で、これはイエス・キリストの人としての聖さを表わします。人の形を取っておられてもイエス・キリストには何一つ罪がありません。聖いイエス・キリストの人性を表わしています。毛皮は預言者としてのイエス・キリスト、そして、赤は十字架で血を流された贖いの供え物としてのイエス・キリスト、ジュゴンは見栄えが悪いというイザヤ書53章に記されているところ、53：2「彼は主の前に若枝のように芽生え、砂漠の地から出る根のように育った。彼には、私たちが見とれるような姿もなく、輝きもなく、私たちが慕うような見栄えもない。」の通りです。十字架に掛かれる前にむちで打たれ、そして、いばらの冠を着せられ、紫や緋の衣を着せられて馬鹿にされて叩かれて、そして、つばを吐きかけられたイエス・キリスト。そのように見栄えのないイエス・キリストを表わしていると私たちは見ることができるのです。幕屋の中に入ると真っ白、外から見るとジュゴンの皮でお

おわれて見栄えのない汚いものでした。しかし、その間に預言者としての働きをされ、そして、尊い血を流されたイエス・キリストの働きが詰まっているのであります。これが幕屋だということを今私たちは知るのであります。当時、もちろんイスラエルの民には分からなかったでしょう。キリストは死に至るまで神の栄光のためにご自身をささげられたのです。ピリピ2：8にはこのように書かれています。「キリストは人としての性質をもって現われ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われたのです。」

### 3. 垂れ幕を作る 26：31-33

幕屋の中の聖所と至聖所を仕切る幕です。ケルビムが四つ織り出されているものです。だから、聖所から至聖所にはだれも入ることができないという印です。あのエデンの園に置かれたケルビムと同じです。祭司でも絶対に入れない。大祭司が年に一度だけ入れるのです。その仕切りの幕を作れと神は言われたのです。31-33に「青色、紫色、緋色の撚り糸、撚り糸で織った亜麻布で垂れ幕を作る。これに巧みな細工でケルビムを織り出さなければならない。：32 これを、四つの銀の台座の上に据えられ、その鉤が金でできている、金をかぶせたアカシヤ材の四本の柱につける。：33 その垂れ幕を留め金の下に掛け、その垂れ幕の内側に、あかしの箱を運び入れる。その垂れ幕は、あなたがたのために聖所と至聖所との仕切りとなる。」とあります。

**亜麻布**：聖さと聖徒たちの正しい行ないの象徴です。黙示録19：8「花嫁は、光り輝く、きよい麻布の衣を着ることを許された。その麻布とは、聖徒たちの正しい行ないである。」

**青色**：キリストの人間性のうちで天に属する性格を表わします。イエスの天のご性質を表わしていると。

**紫色**：ローマ皇帝が当時着ていた衣の色です。王の王、主の主であるイエス・キリストの栄光を表わしています。ヨハネ19：2に「また、兵士たちは、いばらで冠を編んで、イエスの頭にかぶらせ、紫色の着物を着せた。」とあります。

**緋色**：王の色です。先ほど話したように、イエス・キリストが十字架に掛かれる直前に着せられた衣は、まさに、紫色であり緋の衣であったと聖書は私たちに教えています。マタイ27：28-29「そして、イエスの着物を脱がせて、緋色の上着を着せた。：29 それから、いばらで冠を編み、頭にかぶらせ、右手に葦を持たせた。そして、彼らはイエスの前にひざまずいて、からかって言った。「ユダヤ人の王さま。ばんざい。」

この仕切りの幕はイエス・キリストの型です。まさに、この幕を通してでなければ神の許にいけない、「わたしが道」なのです。

⇒ 幕屋の聖所と至聖所を仕切る幕はキリストの型である。垂れ幕にはケルビムが織り出されていた。それはキリストが私たちに代わって神のさばきを受けてくださったことを表わしている。

けれども、このままではだれもここに入ることができません。大祭司でさえも自分の罪をまず動物の血を流すことによって贖なってからでなければこの中に入ることはできなかったのです。そのような仕切りの幕でした。新約聖書はそのことを教えています。

## IV. 新約聖書の説き明かし

### 1. 幕屋と大祭司

#### (1) 天にあるものの写しと影 ヘブル8：1-5

本体はイエス・キリストだと言っています。「以上述べたことの要点はこうです。すなわち、私たちの大祭司は天におられる大能者の御座の右に着座された方であり、：2 人間が設けたのではなくて、主が設けられた真実の幕屋である聖所で仕えておられる方です。：3 すべて、大祭司は、ささげ物といけにえとをささげるために立てられます。したがって、この大祭司も何かささげる物を持っていなければなりません。：4 もしキリストが地上におられるのであったら、決して祭司とはなられないでしょう。律法に従ってささげ物をする人たちがいるからです。：5 その人たちは、天にあるものの写しと影にと仕えているのであって、それらはモーセが幕屋を建てようとしたとき、神から御告げを受けたとおりのものです。神はこう言われたのです。「よく注意なさい。山であなたに示された型に従って、すべてのものを作りなさい。」

#### (2) さらに完全な幕屋

ヘブル9：11「しかしキリストは、すでに成就したすばらしい事からの大祭司として来られ、手で造った物でない、言い替えれば、この造られた物とは違った、さらに偉大な、さらに完全な幕屋を通り、」

#### (3) 真の聖所

ヘブル9：12「また、やぎと子牛との血によってではなく、ご自分の血によって、ただ一度、まことの聖所にはいり、永遠の贖いを成し遂げられたのです。」

#### (4) 偉大で完全な幕屋にただ一度、真の聖所に入られ、永遠の贖いを成し遂げられた

ヘブル10：10「このみこころに従って、イエス・キリストのからだは、ただ一度だけささげられたことにより、私たちは聖なるものとされているのです。」、今、私たちはあのイスラエルの人たちと同じではなくて、イエス・キリストによって完全に聖い者として神に認められることができると教えているのです。

#### (5) 人間の大祭司は動物の血を携え、キリストはご自身の血によって

ヘブル10：12「しかし、キリストは、罪のために一つの永遠のいけにえをささげて後、神の右の座に着き、」

## (6) キリストご自身が垂れ幕

キリストによって神に自由に近づく道が開かれたのです。ヘブル10：19－20「こういうわけですから、兄弟たち。私たちは、イエスの血によって、大胆にまことの聖所にはいることができるのです。：20 イエスはご自分の肉体という垂れ幕を通して、私たちのためにこの新しい生ける道を設けてくださったのです。」とこのように聖書は教えるのです。

## (7) 旧約の終焉

旧約の時代は終わりました。マタイ27：51「すると、見よ。神殿の幕が上から下まで真二つに裂けた。そして、地が揺れ動き、岩が裂けた。」、聖所と至聖所とを隔てていた神殿の幕が上から下まで真二つに裂けたのです。ここにおいて神と人とを隔てていた幕が取り除かれました。このようにして、イエス・キリストによってご自身の垂れ幕を通して救いのわざが完成されたから、この幕は必要でなくなったのです。人間の祭司がささげ物をする必要がなくなったのです。だから、この幕が上から下まで真二つに裂けた、すなわち、上から下まで裂けたということは神の働きです。10cmもの厚さのある幕を人の力で裂くことはできません。神がそのようにされたのです。

どのようなときにそうなったのでしょうか？私たちはイエスが言われたことばにそのことを見ることができます。ヨハネ19：30にイエスが十字架上で息を引き取られるそのときこのように言われたと記されています。「イエスは、酸いぶどう酒を受けられると、「完了した。」と言われた。そして、頭を垂れて、霊をお渡しになった。」「完了した。」とこのことばがあつて隔ての幕が真二つに裂けたというのです。イエスの贖いのわざは完了したのです。完全なものとされたのです。それはキリストが十字架上で流された尊い血のゆえでした。だから、私たちは日毎の罪を動物の血をもって贖う必要はないと教えられているのです。

⇒ 父なる神によって子なる神キリストに託された救いのわざは、ここにおいてすべて完了した。

## 2. 贖罪蓋 ヘブル9：1－5

この贖罪蓋ということばは新約聖書の中に二箇所出て来ます。

### (1) 贖いのふた

ヘブル9：5には「また、箱の上には、贖罪蓋を翼でおおっている栄光のケルビムがありました。しかしこれらについては、今いちいち述べることはできません。」とあります。旧約の時代は「罪をおおわれた」のです。これは一時的なものであると先に話しました。「贖罪蓋」はギリシャ語でヒラステリオンということばが使われています。ヘブル語ではカッポーレス、カーファルと言って、「～贖う」ということばに由来し、動詞形は「キッペル」で「～贖う、おおう、赦す」という意味です。詩篇85：2には「あなたは、御民の咎を赦し、彼らのすべての罪を、おおわれました。」、レビ17：11には「なぜなら、肉のいのちは血の中にあるからである。わたしはあなたがたのいのちを祭壇の上で贖うために、これをあなたがたに与えた。いのちとして贖いをするのは血である。」と書かれています。

### (2) なだめの供え物

ローマ3：25－26を見てください。「神は、キリスト・イエスを、その血による、また信仰による、なだめの供え物として、公にお示しになりました。それは、ご自身の義を現わすためです。というのは、今までに犯されて来た罪を神の忍耐をもって見のがして来られたからです。：26 それは、今の時にご自身の義を現わすためであり、こうして神ご自身が義であり、また、イエスを信じる者を義とお認めになるためなのです。」、旧約の贖いのふたは新約ではなだめの供え物です。すなわち、イエス・キリストです。旧約では動物の血が贖いのふたに注がれましたが、新約ではイエスの血が罪への神の怒りをなだめるために注がれたのです。

Iヨハネ4：10には「この方こそ、私たちの罪のための、——私たちの罪だけでなく全世界のための、——なだめの供え物なのです。」とありますが、派生語でヒラスモス（なだめの供え物）ということばが使われています。全世界のなだめの供え物としてイエス・キリストが立てられたということ、新約聖書では明らかに宣言していることを私たちは知っているのです。また、同じIヨハネ2：2にはこのように記されています。「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちが愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」

## 3. 幕屋

ギリシャ語でスケーネーということばです。

### (1) 神が彼らのうちに住まわれる場所、また、キリストを予表

ヨハネ1：14「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。」、この「住む」はギリシャ語のスケーノオーで天幕を張るという意味です。

### (2) キリスト者のからだを予表

IIペテロ1：13－14「私が地上の幕屋にいる間は、これらのことを思い起こさせることによって、あなた

がたを奮い立たせることを、私のなすべきことと思っています。:14 それは、私たちの主イエス・キリストも、私にはっきりお示しになったとおり、私がこの幕屋を脱ぎ捨てるのが間近に迫っているのを知っているからです。」  
**終わりに：**

心から神のすばらしい救いのご計画に感謝しましょう。エペソ1：4-7「すなわち、神は私たちが世界の基の置かれる前からキリストのうちに選び、御前で聖く、傷のない者にしようとされました。:5 神は、ただみこころのままに、私たちがイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛をもってあらかじめ決めておられたのです。:6 それは、神がその愛する方によって私たちに与えてくださった恵みの栄光が、ほめたたえられるためです。:7 私たちは、この御子のうちにあつて、御子の血による贖い、すなわち罪の赦しを受けているのです。これは神の豊かな恵みによることです。」。救われた皆さんは、全世界の基の置かれる前から神が選んでくださったと、そのように教えています。私たちが救われたのは私たちのわざではありません。義なる正しい行為ではありません。だれかのゆえでもありません。クリスチャンの家庭に生まれたからでもない。たくさんお金を払ったからでもありません。神が選んでくださったからと聖書に書かれています。そのために、すべての者が造られる前から私たちが救おうとして神が計画をされ、また、旧約の時代に様々な形を通して救いとはこういうものだ、不完全なものだ、でも、イエス・キリストの贖いのわざによって完全なものとされたということをお教えされたのです。毎日毎日、私たちが動物を連れてその罪を赦してもらふ必要があったとするならどうでしょう？あの聖所を前にして一時的な赦しを得ることはできませんが、それで満足できるでしょうか？いいえ、私たちは今、神の前に直接進むことができるその特権を与えられているのです。イエス・キリストを信じておられる皆さんにはそのような特権が与えられているのです。

救われているということをお考えた時、私たちは長い信仰生活の中では「なるほど感謝だな」ということもあります。ともすれば、ことばだけになってしまふことが多くあります。あの旧約時代の人たちに比べて、私たちは今「救われていること」が何とすばらしいことなのかを味わわなければいけないと思うのです。幕屋の前に立ちましょうか？それとも、今そのようなものが取り払われて皆さんとともに神を賛美し礼拝する所に置かれ、イエス・キリストが天の聖所で大祭司として働いてくださるイエスを見て、感謝の思いを新たにしましょうか？

私たちはもう一度救われていることを考えなければいけないと教えられます。Iペテロ2：9にこのように記されています。「しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるためなのです。」と、さて、私たちは何をしなければいけないのでしょうか？最早、救われた私たちには動物の犠牲は不要です。イエス・キリストによって祭司とされた私たちは、これは神の豊かな恵みによることですから、多くのまだ救われていない人たちにこのすばらしいみわざを宣べ伝えるのです。これが、この世に置かれている私たちクリスチャンの責任です。「救われるということはこんなにすばらしいことです！」と私たちがそのように知らないで、どうして救われていない皆さんに伝えることができるかということをお教えされます。